

オーディオテクニカからこども歴史文化館への 蓄音機関連資料の寄贈について

1 概 要

福井県出身で、オーディオテクニカ創業者の故・松下秀雄氏が収集してきた蓄音機コレクションについて、こども歴史文化館へ寄贈いただけることになった。

2 寄贈者

松下和雄(まつした・かずお)氏

昭和23年生まれ。

株式会社オーディオテクニカ代表取締役社長

日本大学卒業後、1971年日本ビクター株式会社入社(現 株式会社 JVC ケンウッド)。

1974 年株式会社オーディオテクニカ入社。1992 年副社長、1993 年代表取締役社長(現任)。

【参考】故・松下秀雄氏と(株)オーディオテクニカについて

- ・ 1919 年(大正 8)福井県生まれ。福井商業学校(現 福井商業高校)卒業、高松高等商業学校(現 香川大学経済学部)卒業後、1951 年ブリヂストン美術館に入社。
- ・ 1962 年にオーディオテクニカを創業。1993 年には同社取締役会長とテクニカフカイの会長に、2005 年には両社の相談役に就任。昨年 3 月逝去。
- ・ 現社長の松下和雄氏は、秀雄氏の子息(ともに福井県生まれ)。
- ・ 同社のマイクロフォンは、ソチを含め多くのオリンピックでも採用されている。

3 寄贈資料(別紙)

- ・ 1890～1930 年代に欧米で製造された蓄音機 約 130 台
初期エジソン式蓄音機や海外 3 大メーカー(ビクター・コロムビア・HMV)のオリジナル蓄音機などで、いずれも純正ブランド製品。
- ・ 録音機 2 台
- ・ その他 約 500 点(ろう管レコード・円盤レコード・ホーンなど)

4 松下社長から知事への寄贈目録受渡

- (1) 日時 平成 26 年 3 月 25 日(火) 13:15～
- (2) 場所 知事応接室

5 今後の活用法

- ・ 寄贈資料の一部を 3 月 26 日から 4 月 6 日までこども歴史文化館エントランスで展示紹介する。
- ・ 子どもたちの夢を育むように、一代でオーディオテクニカを築き上げた故・松下秀夫氏のモノづくりへの挑戦や努力をパネルで紹介する。
- ・ 子どもたちに音の再生の仕組み、蓄音機の歴史、当時の音楽の楽しみ方などを伝えていく。
- ・ 県内蓄音機愛好家グループの協力も得て、蓄音機コンサートなどの体験参加型のイベントを開催する。

主な寄贈資料(こども歴史文化館エントランスで紹介予定のもの)

	メーカー	モデル	国名	年代	形態	レコード	概要
1	エジソン	スタンダードA	アメリカ	1901	テーブル外ホーン	シリンダー	エジソンでは初の家庭用で価格は20ドルであった。シングルのゼンマイを使用し、角形のケースに入っている。
2	ビクター	ビクトロラ16	アメリカ	1906	フロア内ホーン	ディスク	初期のフロア型ビクトロラ。「エキシビジョン型」サウンドボックス付き。16型はもっとも大型で豪華につくられている。
3	コロムビア	グラフォフォン BO	アメリカ	1907	テーブル外ホーン	シリンダー	コロムビアの円筒レコード用としての最終モデル。2分間・4分間レコード両用で、装飾が華やかな朝顔型ホーンが付いている。
4	エジソン	アイデリアD-2	アメリカ	1909	テーブル外ホーン	シリンダー	1911年まで製造されたシリンダー型後期の高級モデル。マホガニーのケースにハンドルがつけられ、ユニット部には模様入りの塗装が施されている。合板のシグネットホーン付きで、おもに輸出用に造られた。
5	エジソン	トライアンフE	アメリカ	1910	テーブル外ホーン	シリンダー	エジソン式蓄音機の後期のモデル。合板シグネットホーン、新型リプロデューサー、3重ゼンマイなど、デラックスで多彩な機能を持っている。
6	エジソン	C-150	アメリカ	1912	フロア内ホーン	ディスク	エジソンの円盤レコード用蓄音機。
7	エジソン	C250	アメリカ	1915	フロア内ホーン	ディスク	エジソンの代表的高級機種。デザイン・大きさ、再生音などいずれをとっても他を寄せ付けぬものを備えている。
8	HMV	157	イギリス	1928	フロア内ホーン	ディスク	163型の普及機と考えられるもので、機能的に全く同一であり、サイズのみが一まわり小型になっている。ホーン開口部が大きくなったため、従来型についていたレコード収納部はなくなった。

他3点

主な寄贈資料



1 エジソン スタンダードA



2 ビクター ビクトロラ16



3 コロンビア グラフォフォン BO



4 エジソン アイデアD-2